

帝塚山学院 学院 web 新聞

第14号（2004・10）
編集・発行 帝塚山学院
大阪市住吉区帝塚山中3-10-51
電話 06-6672-1954
FAX 06-6672-1386

学院トピックス（高等学校）

シニアデー 創造性あふれる文化祭



9月19日（日）、毎年恒例の「シニアデー」が開催された。今年のテーマは、大阪の活気溢れるイメージを表現する「OSAKA - なにわっ子」である。シニアデーは高等学校の年間行事の中でも「ふえとだある」と並んでもっとも大がかりなものであり、各クラスのシニアデー委員で組織されるシニアデー委員会が企画し運営した。

当日、グラウンドでは、3年生の模擬店と1年生の射的や、ゲーム、フリーマーケットを中心にしたクラスイベントを個性豊かに出店し、シニアデー委員会企画「ビンゴゲーム」、自治会委員企画も行われ、秋晴れの中大いに盛り上がった。また中庭では軽音楽のコンサート、

各教室では、1年生によるお化け屋敷が催され、他にも文化系クラブの漫画研究会、近代文学研究会、歴史研究会、ユネスコ、ESS、茶道部、写真部、クッキング部などが参加して、研究発表や展示、販売を行って日頃のクラブ活動の成果を披露した。同時に本校の各コースが実施している今年度の海外研修の報告がビデオや写真を使ってなされた。

一方、芸術棟では、書道部と美術部による完成度の高い素晴らしい作品が展示され、又、ギター・マンドリン部によるコンサートやミュージカル部のパフォーマンスも今年から加わって、格調高く文化祭を華やかに彩った。2年生は180cm×180cmのベニヤ板に「大阪」を

テーマにした貼り絵を製作し、貼り絵コンテストに挑戦した。その素晴らしい色彩感覚とデザイン力は、多くの人々の足を引き留めていた。

午後からは、グラウンドでバトン部の完成度の高いパフォーマンスに続いて、全クラスが参加する「仮装パフォーマンス」が披露された。このイベントは、各クラスの参加者が、その年のテーマにそった衣装を着て、3分以内で音楽に合わせて踊ることになっている。今年のテーマは「映画」で、各クラス工夫を凝らしたオリジナルティに富むパフォーマンスを披露し、多くの観客からの喝采を浴びていた。

仮装パフォーマンス及び貼り絵コンテストの表彰は右記の通り。

(中学校・高等学校 教諭 大浦 道代)

仮装パフォーマンス

1位	帝塚山仮装大賞	3 E
2位	優秀賞	3 A
3位	優良賞	3 F
<特別賞>		
	帝塚山アカデミー賞	2 E
	創衣工夫賞	3 D
	最高美技賞	2 D

貼り絵コンテスト

最優秀賞	2 F
優秀賞	2 B

各校だより

幼稚園

■ 幼稚園運動会



10月3日(日)第87回運動会を実施しました。今年は、練習時から天候に恵まれず前日まで実施できる心配されましたが、当日子どもたちの元気が雨雲をおしのけてくれたようです。

大勢の観客の前、物怖じすることなく立派な姿の入場行進で運動会はスタートしました。続いて、全園児がディズニーの曲にあわせエアロビクス風の準備体操。3歳児の若葉組のみなさんも一生懸命、曲に合わせて体を動かす姿が見受けられました。

プログラムは、かけっこ・綱引き・大玉ころがし・たまいれ・親子フォークダンス・親子競技・演技・リレーなど全17種目を実施しました。年少児の演技は、子どもたちがかわいい「アライグマ」に変身。いろいろな動物さんの洗濯をするかわいい発表となりました。そして、

年中・年長児の演技はキラキラ輝くポンポンを両手に、とても気持ちのこもった、力強い演技を発表することが出来ました。胸を張り、空を見上げ、手を精一杯伸ばし、幼稚園児でもこれだけ立派な発表が出来ることに、大きな刺激を受けました。保護者の皆様にも競技に参加していただき、子どもたちも大喜びでした。そのおかげで、運動会がとても盛り上がりました。ご家族の皆様と園児たち全員で楽しむことが出来た運動会でした。



運動会を経験した子どもたちは、責任感ややる気、協力、助け合いといったことを覚えてくれ、一段と成長したことと思います。

最後に、当日早朝より来てくださった保護者の皆様、お手伝いくださった関係者の皆様、多くの支えのもと盛大に行事を終えることが出来ました。心より厚く感謝申し上げます。

(幼稚園 教諭 田中 幸枝)

小学校

■ 第88回 小学校体育大会



9月26日(日)残暑が残る厳しさのもと、体育大会が開かれました。午前9時。運動場に吹奏楽部のファンファーレが響きわたり、行進スタート。真剣さが伝わる演技あり、かわいい演技あり、感動の場面ありで一日が無事終了することができました。紅白対抗戦で行われ、今年は83対91で白の勝ちでした。



以下に各学年の団体演技と競技内容を簡単に掲載致します。

● 各学年の団体演技の紹介

- 1年生 「Let's」 Go!! 聖火をイメージした6色の棒を持ったマーチング
- 2年生 「スイミー」 有名教材「スイミー」を全員で表現
- 3年生 「夢をめざす君に」 体全体で楽しさを表現
- 4年生 「自由」 赤旗を持って、女子十二楽坊の曲で表現
- 5年生 「Go!!!」 シンプルに体の動きのみでダンス。最後のV体系は見事。
- 6年生 「決めろ! ONE PIECE!」 伝統の組み体操。最後の全員技を見事成功。

● 各学年の団体競技の紹介

- 1年生 「親子でファイト!」 玉入れです。1回戦は子どもで2回戦は保護者。
- 2年生 「ゴロゴロパニック」 大玉転がし。
- 3年生 「6・5・4・3・2・1」 6人5人4人3人2人1人にわかれて色々な種目を競い合うものでした。最後の1人は1輪車に乗って走っていました。
- 4年生 「大玉ころがしグレード4」 大玉転がしの難しい版。デカパンはいて棒でコロコロ。
- 5年生 「いざ、帝塚山!」 伝統の騎馬戦。大将戦は息をのんで見ていました。
- 6年生 「全員リレー!?バトンが」 バトンが風船玉。しかもアンカーになると5玉を持つての競争。大逆転あり。

(小学校 教諭 磯部 晋吾)

■ 小学校 ダンス部

小学校のダンス部は、音楽に合わせて踊ることの大好きな子どもたちが「どうしてもクラブを作ってほしい」と学校をお願いして作ったクラブです。ですから、毎日、毎日休み時間に自主的に集まって踊っています。

今年は7月31日(日)に堺市の浜寺公園で行われた「堺大魚夜市」のステージと、9月19日(日)に行われた「堺港祭」のステージに参加させていただきました。大好評で来年の出演も決まっています。



今回は10月17日(日)堺市のザビエル公園(交通:阪堺線花田口駅徒歩1分)で行われる「堺祭 なんばん市」のステージに参加し、13:00~13:30までの30分間のステージで踊ることになっています。ダンス好きの女の子たち25人が、毎日仲良く楽しくがんばっています。

(小学校 教諭 阿野 千里)

中学校・高等学校

■ 高等学校 ふえとだある 絶賛の舞台公演

9月17日(金)、大阪狭山市の大阪狭山市文化会館 S A Y A K Aホールで「ふえとだある」(高等学校 クラブ発表会)が開かれた。総勢88名のオーケストラ部伴奏による祝歌を全員斉唱した後、オーケストラ部の「スラブ舞曲」のすばらしい演奏で幕を開けた。ギターマン ドリン部の「剣の舞」、コーラス部の「鳥舟」などの美しいハーモニーが会場に響いた。今年は、全国大会への出場を勝ち取った軽音楽部がオリジナルを含め5曲を披露した。



バトン部のライトバトンなどの魅惑的で躍動感あふれる演技に続き、今年初公演となった日舞部の「五郎」などの舞が行われた。ドラマ部は、3年生の卒業レポート作品として「あの夏の記憶」を、戦争の悲劇を訴える舞台として演じた。ミュージカル部は「ラ・ボエーム」を格調高く演じ、ダンス部は全国大会特別賞受賞作品である「万華鏡」で完成度の高い演技のすばらしさを満喫させてくれ、発表会の幕を閉じた。S A Y A K Aホールのせり上がり舞台の利用は、それぞれの企画に大きな舞台効果を発揮していた。



どのクラブも日頃の練習の成果を十分に発揮し、また運営に当たった「ふえとだある委員」が実によく自分の役割を認識し動いてくれた結果、劇場スタッフはじめ保護者から絶賛されるすばらしい舞台公演が実施できたのであった。

(中学校・高等学校 教諭 中井 宏)

■ 中学校 文化祭第Ⅱ部



9月23日(祝)、中学校では恒例の文化祭第Ⅱ部が行われた。前日の天気予報では雨が予想されていたが、雲の間から時々太陽が顔を出すまじまじの天気恵まれ盛会であった。

今年の文化祭テーマの『オリピック～人・地球・環境～』にのっとり、1年生は貼り絵を、2年生は各クラスでの研究展示、3年生は運動場で模擬店を実施した。また各クラブは夏休み中のクラブ活動の成果を趣向を凝らした展示で発表するなど、生徒たちのがんばりが見学者の目をひいた。

一般見学者の入場を前に各クラスの担任を先頭に、貼り絵と研究発表用の投票用紙を手に入れた在校生が真剣な眼差しでグラウンドにおかれた1年生の貼り絵と2年生各クラスの展示を見学した。同じグラウンドでは運動部がクラブ活動のPRをかねた体験型の展示を行い、体験を希望する見学者の長い列ができていたのが印象的であった。

また、今年度の文化祭にこられた一般見学者の総数は450名に達し、来年中学校の受験を希望される小学生やその保護者の方たちも数多く来校され、本校の雰囲気を楽しんでいただけたようであった。

今年は中学校の執行部に代わり、各クラスのホームルーム委員が文化祭準備を担当したが、初年度であったので十分とはいえないところもあったが、今後の課題としたい。準備を担当した各クラスのホームルーム委員に感謝します。

(中学校・高等学校 教諭 小林 修)

泉ヶ丘中学校・高等学校

■ 平成16年度 第22回 体育大会

9月26日(日)、平成16年度 第22回体育大会が開催されました。

本校の体育大会の特色は、中学1年生から高校2年生

までの各学年を、赤・白・青・黄の4つのチームに分けて競技を行い、得点を競うところにあります。

体育大会当日はさわやかな秋晴れに恵まれ、生徒会長 普通科2年生 辻野 洋平くんの開会宣言の後、体育委員長 普通科2年生 前 裕和くんの力強い選手宣誓で熱戦の幕を開けました。生徒たちはそれぞれの競技種目に参加し、心地よい汗をたっぷり流していました。

毎年、生徒たちから新種目を募集していますが、今年はデカパンリレー、NEW!綱引き、バーゲン争奪戦、大玉リレーが採用されました。最終種目のクラス対抗リレーにおいては各クラスの代表がプライドをかけ、力走しました。

全生徒が全力を尽くした結果、昨年と同様に青団の優勝で幕を閉じました。また、多くの保護者の皆様にも応援していただき、体育大会を無事終えることができました。どうもありがとうございました。

(泉ヶ丘中学校・高等学校 教諭 体育科 楠瀬 寿夫)

リレー随筆

「地中」で現代アートについて考えた。

大学 文学部 教授 大森 淳史



コンクリート打ち放しの大きな内部空間の床全体が階段になっていて、その中央の「踊り場」の上に、表面をツルツルに磨かれた直径2.2メートルの巨大な黒い花崗岩の球が鎮座している。ルーヴルの「サモトラケのニケ」は翼を広げて踊り場から飛翔しようとしているが、こちらは転がり落ちてきそう。壁には、切り口が3角形、4角形、5角形の金色の柱が、壁から突き出たいくつものコンクリートの「神棚」の上にそれぞれ3本ずつうやうやしく突っ立っている。また別の部屋は、暗い開口部から中へ足を踏み入れると、天井を通して均一な光

が真っ白な室内に満ち溢れ、なにか時間と空間を超越した光の聖域に浮遊しているような感覚にとらわれる演出が仕組まれている。部屋の入り口では、一度に4人以上入室できないよう、白い「制服」に身を包んだ若い女性係員が礼儀正しく観客を制御しており、聖域の演出を盛り上げている。

9月の初め、顧問をしている学院大学のMG探検クラブの合宿に付き合っ、瀬戸内海に浮かぶ直島にできたばかりの「地中美術館」を訪れた。ちなみに、MGのMはMUSEUMの頭文字のM、GはGALLERYの頭文字のGで、みんなで美術館や画廊を観て回ろうという趣旨のクラブである。

さて地中美術館であるが、建物全体の設計はあの安藤忠雄氏。最初の部屋はウォルター・デ・マリア、後の部屋はジェームズ・タレルのそれぞれ恒久的なインスタレーションで、作家と安藤氏とが空間ごと共同で設計したとのことである。この2人の現代作家のそれぞれ複数の部屋のほかに、クロード・モネ晩年の大きな「睡蓮」のタブローを展示する部屋もある。太陽光が広々とした白い空間をやわらかく満たしており、ことにカラーラ産の高価な白大理石のモザイクタイルの床が空間全体の静謐な雰囲気演出している。

ここを経営しているのは、岡山に本拠を置く受験産業の「ベネッセ・コーポレーション」。われわれは高松からフェリーで渡ったが、地図で見ると岡山県の宇野の方が近い。直島には、最近オープンしたこの地中美術館のほかに、そのすぐ近くに「ベネッセハウス」という建物もあり、これがいわば本館にあたる。ここも現代美術館で、やはり設計は安藤氏である。実は、このベネッセハウスはかなり高級なリゾートホテルでもあり、その客室は超優雅なオーシャンビューで、各部屋に現代アートが「展示」されているという話だが、一般の観客は、客室内はおろかホテルへも足を踏み入れることすら許されない。ちなみに、その宿泊料金やレストランのコースメニューの料金は、じゃあ一度泊まってみようか、などという気軽な気持ちを萎えさせる。駐車場には高級外車が並んでいた。

だんだんケチな話になるが、美術館の料金も高級で、ベネッセハウスが1,000円、地中美術館は2,000円、計3,000円だった。びっくりしたのは、地中美術館のチケットというのが「誓約書」になっていて、敷地内で写真を撮るなどか、建物も作品なので建物に手を触れるなどか、禁止事項がいくつか箇条書きされており、その下に署名をしないと入れてもらえない決まりになっていたことだ。これも白い「制服」を着た若い係員が礼

儀正しく説明してくれ、ボールペンを手渡してくれた。

現代アートはむずかしく、取っ付きにくい。おそらく偶然その前に立たされるはめになった一般人には、いったいそれにどう対処してよいのか、誰かにその糸口だけでも教えてもらわないと、自分の力では皆目見当もつかない、というのが大方予想される状況だろう。アートは万人のものだ、誰でも素直に眺めて感じてそれぞれの仕方を楽しめばよいのだ、といったたぐいのことばをしばしば耳にすることがある。それはたしかにそのとおりののだが、しかし実際のところ、現代アートの「アート・ワールド」はおおよそ世間から優雅な距離を保って閉じられた世界で、閉じられているがゆえにそのなかに居ることに親しんでいるある種の人々には心地よく、またその閉じた韜晦（とうかい）なポーズのゆえにかえって世間で特別な価値を与えられるということが起こりうる。この特別な価値は、ときとして商業資本や公共団体の予算配分と結びつく。直島の施設やインスタレーションの心憎いばかりの「演出」が、現代アートの本質の一端について考えるきっかけを与えてくれた。

なお、この文章には写真を添付することという注文をいただいていたが、写真を撮ったりしたらどんな仕打ちが待ち受けているか怖かったので、地中美術館では一切撮らなかつた。添付の写真は、直島の前日に訪れた丸亀市猪熊弦一郎現代美術館正面でのスナップである。丸亀の方には失礼ながら、さびしい丸亀駅前に突如出現するこの現代美術館も、わが敬愛する猪熊弦一郎の作品とともにきわめて心地よい空間であったことを書き添えておきたい。

今回の執筆者は、大学 文学部の**三浦 信一郎 教授**を予定しています。

● ベネッセアートサイト直島の URL

<http://www.naoshima-is.co.jp>

「理事会決議報告」

■ 理事長選任



10月7日（木）開催の理事会におきまして、前 大阪市長 磯村 隆文（いそむら たかふみ）氏を帝塚山学院 理事長として選任いたしましたので、お知らせいたします。なお、任期は平成16年10月7日

より平成19年10月6日まで。

磯村 隆文 理事長は、昭和5年生まれ（73歳）、昭和47年大阪市立大学大学院にて経済学博士号学位取得。大阪市立大学経済学部教授、大阪市助役、大阪市長等を歴任、また、大阪市立大学名誉教授でもあります。

【御縁があつて】

学校法人 帝塚山学院理事長 磯村 隆文

御縁があつて、帝塚山学院に招かれました。私は大阪市長として、大阪市立大学で育てていただいたお礼奉公はすませたつもりでしたから、昔から上品な学校と聞いていた帝塚山学院で、子どもたち、若い人たちを育てる仕事に役立てば、と考えて決心いたしました。

学院に出勤してきて、やはり学校は長閑でいい所だと思っています。しかし私が働いていた社会では、競争と言う暴風が吹いています。都市でも企業でも、何もしないでいると、暴風に飛ばされて、負け組になります。暴風に備えて改造した組織が勝ち組になっています。今、国公立大学は、この暴風の中にあり、私学もそれに巻き込まれつつあります。改造が現実化するまでに、数年間はかかるでしょう。時の流れを読めば、改造計画を早くつくらねば間に合いません。知人の私学関係者は、この2、3年間で、私学に学生が来るか来ないのかの勝負になる、とっています。無駄に時間を過ぎずに、帝塚山学院の特色を打ち出し、古い型の部分を、魅力あるものに変えてゆかねばなりません。古いものを解体する必要はないのです。組立て直せばいいのです。人材を活かして、新しい仕組みにするのです。人材は自らの能力を、新しい方向に伸ばす努力を怠ってはいけません。それが組織を活性化させるのですから。

こんな想いで、私は理事長に就任しました。上品で、しつけのいい子どもたちを、明るく楽しく育ててゆきたい。児童、生徒、学生たちには、必要な知恵と知識を身につけてもらいたい。そんな学院だからこそ、保護者の皆様も、児童、生徒、学生たちも帝塚山学院で学ばせたい、学びたいという気持ちになる、そんな特色を早く打ち出してほしいと願っています。私はこの御縁をせい一杯、活かせたいと決心しています。